

# 上越市大島区、松之山温泉を訪ねて

中野 小田切松枝（北城町出身）

一望の茹田、処々に青さが見えるひつじ田、正に晩秋のふるさと、その節の十月三十一日〜十一月二日の二泊三日に亘り、Jネット秋の交流会として上越市大島地区と、十日町市松之山温泉を訪ねる旅に参加させていただきました。

【十月三十一日（金）】

十月三十一日（金）午後一時直江津駅南口に集合、一人の遅刻者もなく総勢十名（女性三名）一路頸城平野を走り抜け、大島地区へと向かいました。

## 虫川の大杉

国の天然記念物、樹齢千数百年の虫川の大杉、高さ三十メートル、周囲十一メートル、神社の境内を走り根がところ狭しと張り出し、踏みしめられることを避けるため、渡り廊下の様な歩道を歩き



見学する。千年の年月を守り続けた地元の方々の、並々ならぬ努力の苦勞話や思いを語り部は訥々と私達に語りかける。（因みに日本一である将軍杉も新潟県内にある。）

千年の大杉守り 里の秋

## 飯田邸

庄屋の家飯田邸は、昔の姿そのままの風情が残されている。大きな敷石に家の風格が偲ばれ、屋根裏を利用した部屋に上がる梯子にふと父の生家に想いをさせる。屋敷の周りは柿が色を添え、山芋の蔓が木々を被い零余子（むかこ）が嵩かさ）をなして零れ落ちて、風が吹く度に紅葉がひらひらと舞い、落ち葉となる。

過く風に 紅葉且つ散る 飯田邸  
もみぢ葉の 見目好きものを 葉けり



## 板山不動尊

板山不動尊に関しては、会報十四号で藤沢さんがふるさと上越市の滝で紹介しておられます。道路脇を下り道なりに進むと間口三十メートル、奥行十三メートル、高さ八メートルの半月型水成岩洞窟が目飛び込んで来ました。暗い洞窟内には不動尊が祀られ二百数十体の石佛が安置されています。地元の方々の好意により石佛一体ごとに蠟燭を灯し万灯会の如しとその灯の美しさに見入りました。しばし幽玄の世界に引き込まれました。目の病に良いと言ふことで岩からの一乗を目にいただきました。滝は轟音を立て落下し秋の瀬を生み、そして瀬音やさしく流れて行く様に方丈記の冒頭文を思い出しました。



小田切松枝さん

冷ましや  
燭明と  
不動尊  
散紅葉



【十一月一日(土)】  
九時あさひ荘出発、雨模様でしたが走るほどに雲が切れ晴れてまいりました。

### 青空市場

誰でも出品できる市場です。多種多様の品物がところ狭しと並んでいました。生きた虻(まむし)まで売られていたのには驚きました。各自籠を持って買ひ物を楽しんだようです。

朝市の 物の一つに 零余子売る

### そば打ち体験(庄屋の家にて)

本日の昼食を作るそば打ち体験講座です。最初地元名人の方の指導の下それぞれ分担して取り掛かりました。かなりの重労働で腰に負担がかかり交替しながら進みましたが今度は型が思う様にならず名人の手助けを受けて、ようやく一定の厚さと広さになりました。

切るのは任せ

てと女性軍千六本を切る要領で少々不揃いの蕎麦が出来上がります、昼食に間にあいました。又心づくしの山菜料理に舌鼓を打ち、地元参加の



方と別れ直江津駅にむけて庄屋の家を出発しました。直江津駅にて解散。

不揃いの 手打ちそば食べ 秋惜む  
行く秋や 姫指南の 手打ち蕎麦

### オブショナルツアー 松之山温泉

車二台に分乗して松之山にむけて出発しました。大島地区より更に奥なのでゆっくりと車窓より山の景色を眺めながら車を進めてまいりました。

### 松之山民族資料館



雪国の生活、特に山深き郷を支えた色々な生活用品、農耕生産用具、写真、古文書等が展示されていました。火消壺、かんじき等は懐かしく幼い頃の生活

が頭を過ぎりました。  
特に、青芋の茎の皮から取り出した繊維をいざり機で織るのは女性で出来上りの上手なのが嫁入りの条件と聞いて今に生まれてよかったですと胸に安堵が広がりました。

古文書の 傷みの激し すがれ虫  
坂道に ひとしほ深し まゆみの実

### 隠れキリシタンの寺

人の気配がなく帰りがけた時に温厚な翁が見えて説明をして下さいました。

江戸幕府によつて迫害や弾圧を受けたキリシタンは人目を忍び、隠れて信仰を貫き通しました。そのために巧妙なリア観音や子育て地藏を作り、それをリアアと信じて信仰の守り続けたといえます。わが国でも三体しかないといわれる貴重なマリア像が所蔵されています。雪深い山国は信仰を守るには自然の条件が揃っていたのでしょくが信じるということはずこい力となると思ふ寺を後にしました。

草紅葉 屈めば母と 居るごとし



マリア観音像

資料館の館長の勧めで大蔵寺高原へ、ドライブに行こうと決まり山路の中高原を指しました。天水越の樺林が色を変えて終わりなき繁きを魅せ山装うという景色の中、正に暮れがての山々、言葉では言い表せない素晴らしい自然と太陽との絡み合いに歓声の連続でした。日が落ち薄路の向こうに灯がボツリと見えて来ました。今日の宿「おふくろの館」の灯です。

山紅葉 落暉に色を奪はるる  
暮れがての 山路の彼方 秋灯



大蔵寺高原からの眺望

松之山温泉の名は子供の頃から知っていましたが訪ねるのは今回が初めてです。新潟と長野の県境にたえず山間の雪深い温泉地です。今から七百年以上前の南北朝時代、一羽の鷹が舞い降りて傷ついた羽を休めているのを木こりが見つけ、そこに滾々と湧く熱泉を発見したという伝説が残っています。また室町時代越後守上杉家の隠し湯であったという説もあり、その効能は古くから知られ日本三大薬湯の里と呼ばれています。



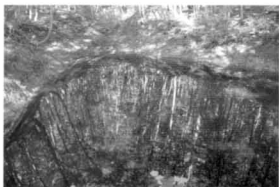
お宿「おふくろ館」の窓から米山さんを眺む

## 【十一月二日(日)】

## 美人林

今回の旅で一番楽しみにしていたのが美人林です。最初の赴任地が松代であった妹がよく樺林のことを話していました。春の芽吹き頃、萌黄色の美しさを称えていました。一度尋ねてこの目で確認したいと常々思っていました。今回念願がかない憧憬の人に出会った嬉しさと感動を覚えました。特に池のまわりを取り囲む様に逆さに映る樺ふなの幹、空よりも濃い池の青さ、池をカンバスに一枚の絵を鑑賞しているようでした。しばらく林の中を歩きましたがとても足裏に優しいぬくもりのある落葉の路でした。

樺林 映して池の 澄みにけり  
美人林 足裏にやはし 落葉径



鏡のような池

水島セツさんを越後田沢駅へ送り清津峡谷へと車を走らせました。

## 清津峡

上信国境の白砂山付近に源を発する清津川が作り出す峡谷で、清津峡温泉から湯沢町八十沢までの約十二、五キロの峡谷をいうが、特に清津峡温泉から上流八キロに亘って素晴らしい景観を見せる。狭まった兩岸に柱状節理の発達した五十から百メートルの断崖が迫り、屏風岩、昇天閣、黒岩、などと名付けられた景勝が続く、変化に富む渓谷美を展開させています。私達は平成八年に完成したトンネルを歩き、第一見晴所、第三見晴所、パノラマステーションまで歩きました。屏風岩の岩肌を間近に見、絶壁にそそり立つ柱状節理を見学しました。その六角柱状を目のあたりにし自然の凄さと美しさに感激しました。細く蛇の様に流れ行く川と柱状節理と紅葉のコントラストにしばし時を忘れて歩を止めました。

附道を出でしところに 映紅葉  
長々と 映一望の 照紅葉

清津峡を後にして一路湯沢に向けて出発しました。東京へ帰る方々を送るためです。無事にお見送りをし、私は直江津の妹の家へと帰路に着きました。

里山を あまさず染めし 秋夕焼

昨年引き続き今年もふるさとを訪問できたこと大変嬉しく、感謝申し上げます。  
 自然と暮らす人々のなんと優しく人懐こく、住んでいるところの自然、物祖先から受け継いできた行事、しきたり等を大切に守って淡々と暮らしておられる姿に、頭が下がり、大きな拍手を送りたいと、そんな思いにさせられた二泊三日の旅でした。



清津峡の大渓谷



千数百年の巨木



虫川の大杉と一緒に



飯田郡正門にて



飯田郡正門にて



板山不動尊横の不動滝



板山不動尊



燭明明と



板山不動尊 奥深くの狛犬さん



そば打ち体験



そば打ちの先生と



庄屋の家にて



「あさひ荘」での宴会



大巖寺高原からの眺望



隠れキリシタンの寺宝 マリア地藏



男も美人になるという美人林



美人林にて



「おふくろ館」より



清津峡の大岩壁を背にして



こんな里山もありました (松之山)



こんな里山もありました (大島区)